

チでは異常集積を認め、骨病変の検出には Ga シンチが有用であると考えられた。

21. 原発性良性骨腫瘍の骨, ^{67}Ga シンチグラフィ

滝 鈴佳 利波 紀久 久田 欣一
(金沢大・核)

原発性良性骨腫瘍の鑑別診断における骨シンチ, ^{67}Ga シンチの意義について検討した。

対象は病理学的に診断の得られた原発性良性骨腫瘍 33 例で, Histiocytosis-X 10 例, Giant cell tumor 5 例, Solitary bone cyst 3 例, Fibrous dysplasia 2 例, Non-ossifying fibroma 2 例, Enchondroma 2 例, その他 9 例であった。

結果は、骨シンチの集積は、Histiocytosis-X では一定の傾向はみられず、Giant cell tumor では高度の集積を示す傾向がみられた。また、Solitary bone cyst は集積陰性であった。 ^{67}Ga シンチの集積は、骨シンチの結果にほぼ一致し、感染の合併を除けば、特に付加的情報は得られないものと思われた。

22. 骨髄炎評価における $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -WBC, ^{67}Ga -citrate, および $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MDP イメージングの役割

油野 民雄 滝 淳一 横山 邦彦
秀毛 範至 高山 輝彦 利波 紀久
久田 欣一 (金沢大・核)

骨髄炎または骨髄炎が疑われた症例を対象に、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -WBC, ^{67}Ga -citrate, および $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MDP イメージングの有用性を検討し、骨髄炎診断における各検査法の役割を明らかにすることを目的とした。MDP 検査は骨髄炎の確定診断法とはなりえなかったが、骨髄炎の除外診断、および ^{67}Ga や WBC 検査における所見の陽性か陰性かを決定する際の補助診断に適していた。WBC 検査は三検査法のなかで骨髄炎の確定診断法として最も信頼性の高い検査法であり、特に発症早期の急性期の評価に適していた。一方 ^{67}Ga は診断的特異性が WBC 検査より低かったものの、発症後一定期間を経過した慢性期や、axial skeleton 部の病巣の評価に適していた。

23. 肝胆道シンチグラフィ所見と体外衝撃波胆石破碎療法による胆石消失効果との関係

松村 要 吉田 亘孝 高木 勲
(社会保険羽津病院・放)
越山 肇 木村 光政 (同・内)
竹田 寛 中川 毅 (三重大・放)

胆石症 22 例に対して体外衝撃波結石破碎療法 (ESWL) を行い、16 例にて 3 mm 以下の破砕片となり、破碎効果良好と判定した。その 16 例の破砕片消失と ESWL 開始前または終了後に行った $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -PMT 肝胆道シンチグラフィ所見との関係について検討した。セオスニン筋注により求めた胆嚢収縮分画は、破砕片消失良好群 (7 例) にて $87.6 \pm 9.3\%$ であり、消失不良群 (9 例) の $47.5 \pm 27.6\%$ に比して有意に高値であった。十二指腸出現時間は、消失良好群 35.7 ± 18.1 分、不良群 45.7 ± 20.6 分で有意差を認めなかったが、総胆管嵌頓の 2 例は 60 分以上であった。肝胆道シンチグラフィは、ESWL 適応決定の一つの指標を提示すると考えた。

24. 肝疾患における $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -GSA の有用性についての検討

兼松 雅之 今枝 孟義 関 松蔵
望月 亮三 土井 偉誉 (岐阜大・放)

$^{99\text{m}}\text{Tc}$ -DTPA-Galactosyl Human Serum Albumin ($^{99\text{m}}\text{Tc}$ -GSA) を用いて種々の肝疾患について、従来の $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -フチン酸との比較をまじえ、その有用性につき検討した。

$^{99\text{m}}\text{Tc}$ -GSA の血中停滞率指標として心 cpm の 15 分後/3 分後比 [HH15]、肝摂取率指標として 15 分後の肝 cpm/(心 cpm+肝 cpm) 比 [LHL15] を求めた。HH15, LHL15 は各種肝機能検査と良好な相関を示し、肝機能を評価するひとつの指標として有用であった。 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -GSA シンチグラムにより肝の形態評価が可能であり、 $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -フチン酸シンチグラムとの乖離を認めなかった。患者 12 人に対する 18 回の投与において副作用を認めなかった。